

『ENTONI No.142』 正誤表

『ENTONI No.142』(2012年7月号)におきまして、下記参考文献のSummaryの文章の抜けがございました。

著者の先生、ならびにご関係の皆様へ深くお詫びし、訂正申し上げます。

2012年7月9日 全日本病院出版会

ページ p.29 参考文献

- 1) Ellen RW : Acute sinusitis in children. Adv Otolaryngol Head Neck Surgery, **2** : 165-188, 1988.

Summary 小児の副鼻腔は各開口部の内径が小さいために閉塞しやすい。重要な生理機能は、副鼻腔口の開存性、繊毛の機能、分泌物の質である。

- 2) 山中 昇, 工藤典代(編) : 副鼻腔炎のマネジメント 70のQ & A : 30-231, 医薬ジャーナル社, 2011.

Summary 耐性菌を選択しないために抗菌薬の高用量が有効である。またバイオフィルム感染症に対応した抗菌薬選択が重要である。

- 3) 清水猛史 : 慢性炎症の概念と病態 炎症担当細胞の役割. JOHNS, **27**(11) : 1729-1733, 2011.

Summary 気道粘膜で産生された粘液は能動的に微生物を捕捉し排除する。よって処置により粘液を除去することは有効である。

- 4) 飯野ゆき子 : 小児鼻疾患への対応—小児副鼻腔炎の臨床—。日鼻誌, **47**(1) : 92-93, 2008.

Summary 小児鼻副鼻腔炎ではI型アレルギーの合併頻度が高いが、I型アレルギーが存在しても感染性の病態が優位である。

- 5) 日本鼻科学会編 : 第6章 治療 : 43-60, 副鼻腔炎診療の手引き。金原出版, 2007.

Summary マクロライド系抗菌薬の有効性は、抗炎症作用、免疫調整作用、粘液過剰分泌抑制作用などによる。